

山城北保健所管内の感染症発生動向調査

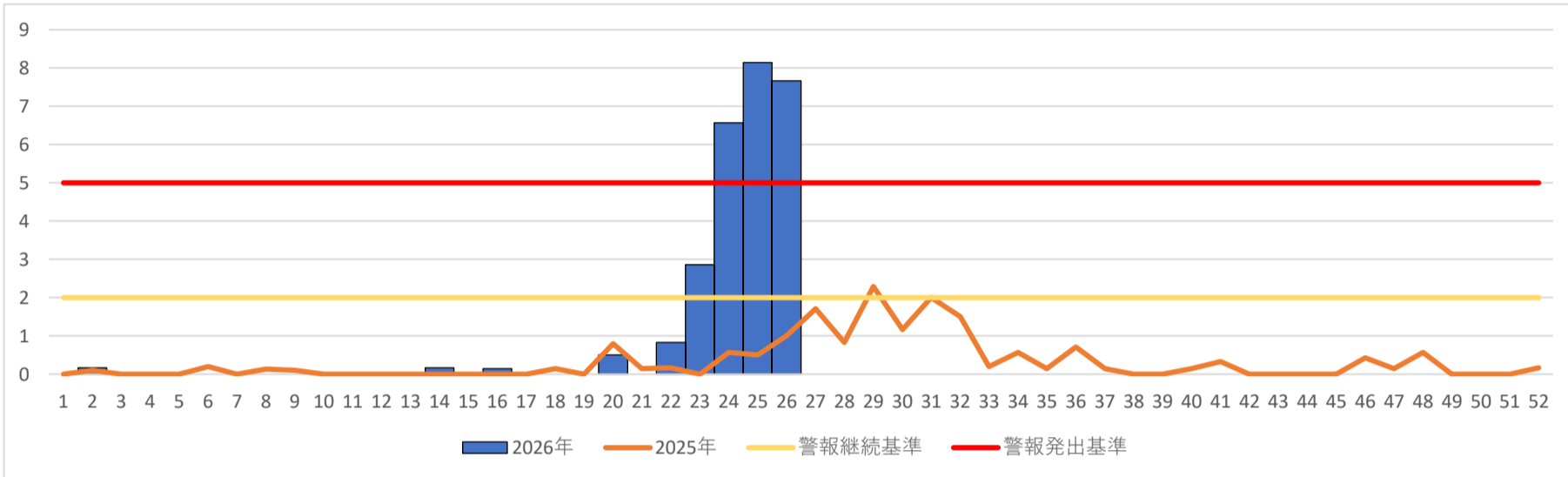
(ARI定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

2026年 第26週 (6月22日～6月28日)

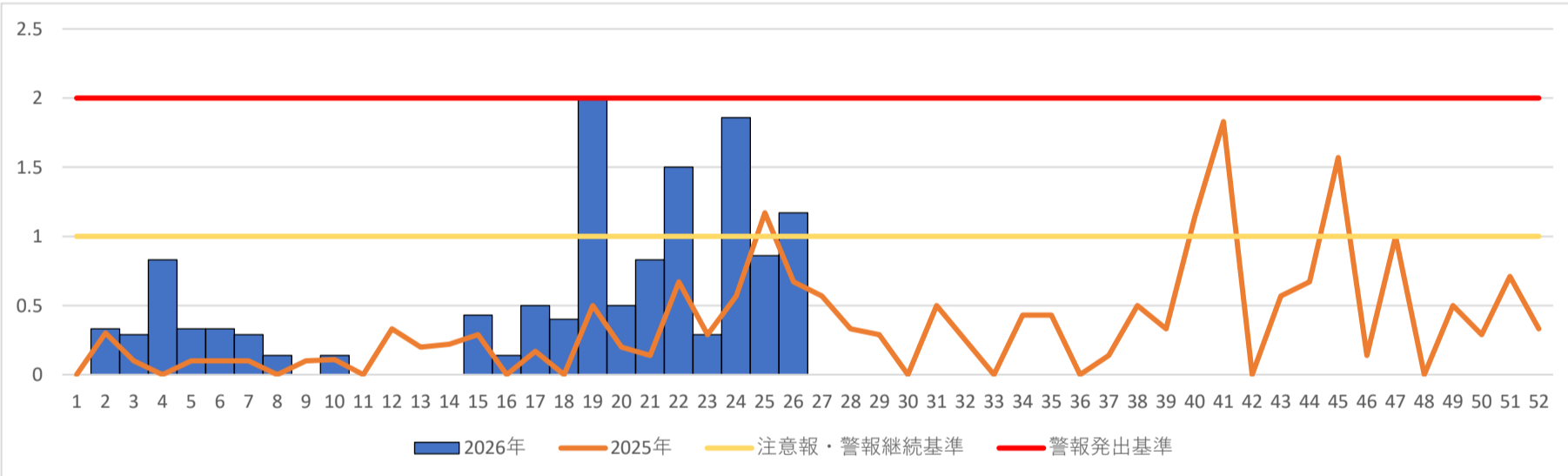
今週のコメント

- 「手足口病」の定点当たりの報告数は、7.67 (25週8.14、24週6.57) と横ばいでしたが、依然警報発出基準を超えています。家庭内での感染を防止するためにしっかりと手洗いをし、タオルの共有は避け、排泄物を適切に処理するようにしましょう。
- 「水痘」の定点当たりの報告数は、1.17 (25週0.86、24週1.86) と横ばいでしたが、引続き注意が必要です。
- 「ヘルパンギーナ」の定点当たりの報告数は、1.83 (25週1.00、24週0.86) とさらに増加傾向です。
- 「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」の定点当たりの報告数は、4.67 (25週3.29、24週3.71) と横ばいです。
- 「新型コロナウイルス感染症」の定点当たりの報告数は、1.00 (25週1.20、24週1.30) と横ばいです。

手足口病 (定点把握疾患) 山城北保健所管内週当たり報告数



水痘 (定点把握疾患) 山城北保健所管内週当たり報告数



定点把握疾患

<特定の医療機関(定点医療機関)を定め、その医療機関を受診した患者の数を基に、流行状況を把握>

疾患名	定点あたりの報告数 (前週比)	疾患名	定点あたりの報告数 (前週比)
インフルエンザ	— (0.00)	手足口病	7.67 (0.94)
新型コロナウイルス感染症	1.00 (0.83)	伝染性紅斑	— (0.00)
RSウイルス感染症	0.17 (0.00)	突発性発しん	0.17 (1.21)
咽頭結膜熱	0.50 (1.16)	ヘルパンギーナ	1.83 (1.83)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.67 (1.42)	流行性耳下腺炎	0.17 (1.21)
感染性胃腸炎	3.50 (0.94)	急性出血性結膜炎	— (0.00)
水痘	1.17 (1.36)	流行性角結膜炎	0.33 (0.00)

定点あたりの報告数 = 1週間の報告件数 / 定点数

警報：1週間の定点あたり報告数が、ある基準値(警報の開始基準値)以上の場合に発生します。

前の週に警報が発生していた場合、1週間の定点あたり報告数が別の基準値(警報の継続基準値)以上の場合に発生します。

注意報：警報が発生していないときに、1週間の定点あたり報告数が、ある基準値(注意報の基準値)以上の場合に発生します。

全数把握疾患

<全ての医療機関から医師の届出が義務付けられている感染症>

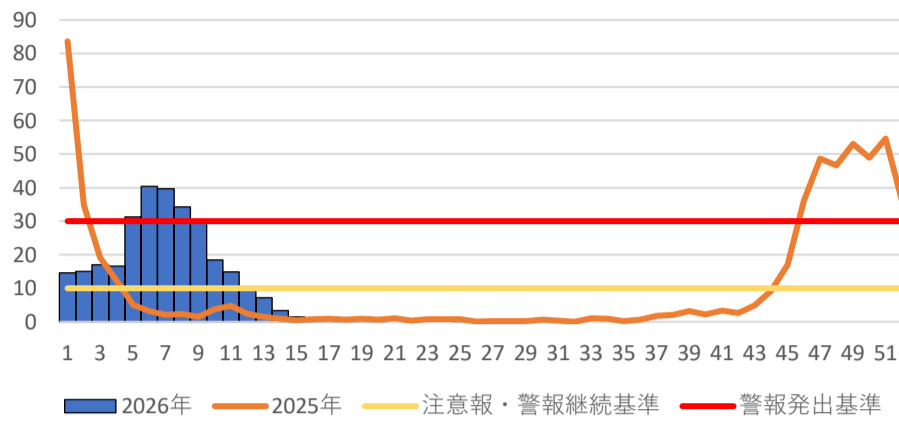
分類	報告
1類感染症	報告なし
2類感染症	報告なし
3類感染症	報告なし
4類感染症	報告なし
5類感染症	報告なし

※このデータは速報値であり、今後変更等が行われる可能性があります。ご了承ください。

参考：京都府感染症情報センター <https://www.pref.kyoto.jp/idsc/>

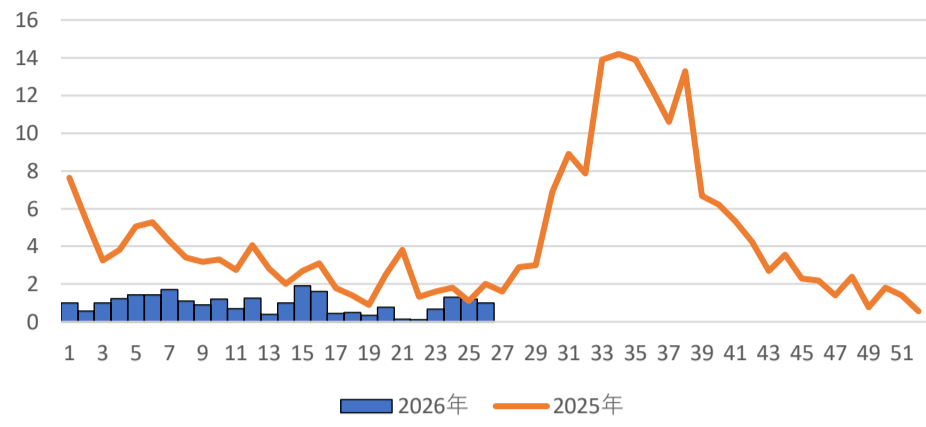
山城北保健所管内定点当たり報告数推移

インフルエンザ



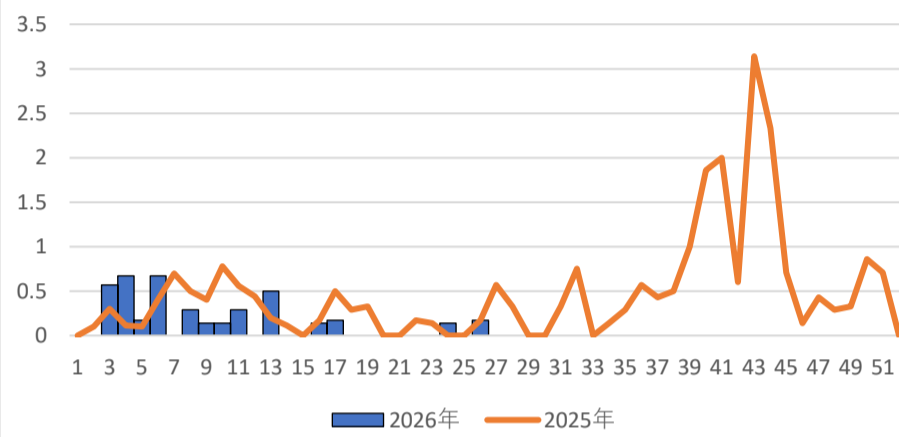
新型コロナウイルス感染症

警報基準なし

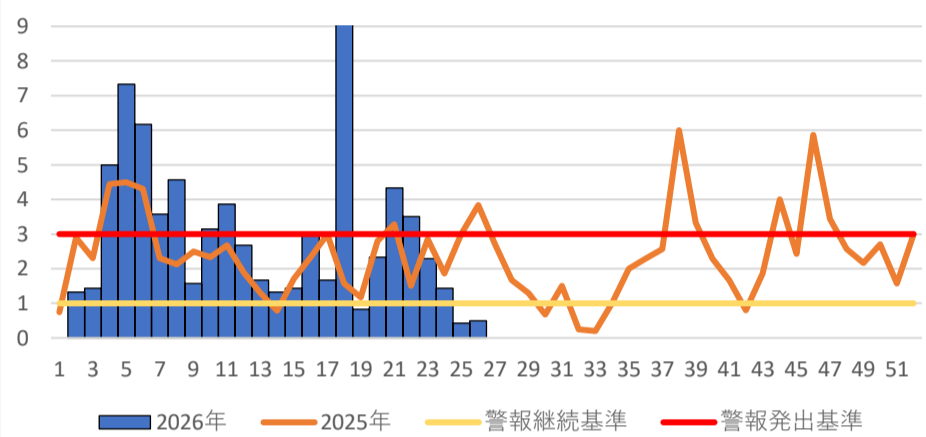


RSウイルス感染症

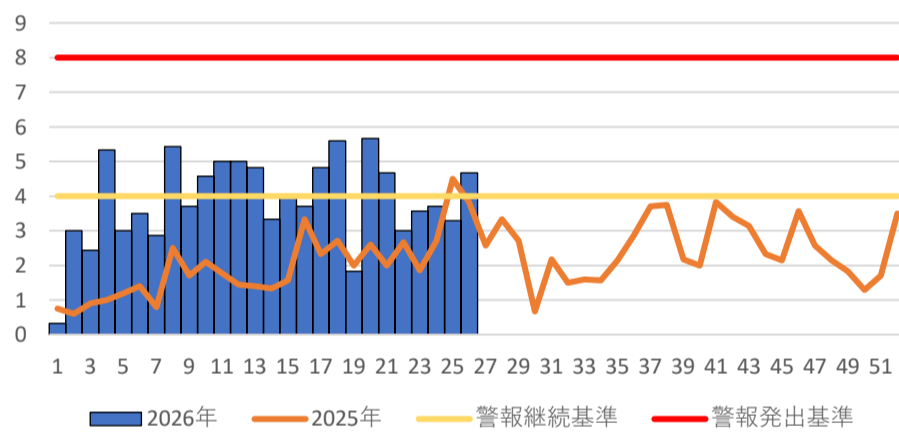
警報基準なし



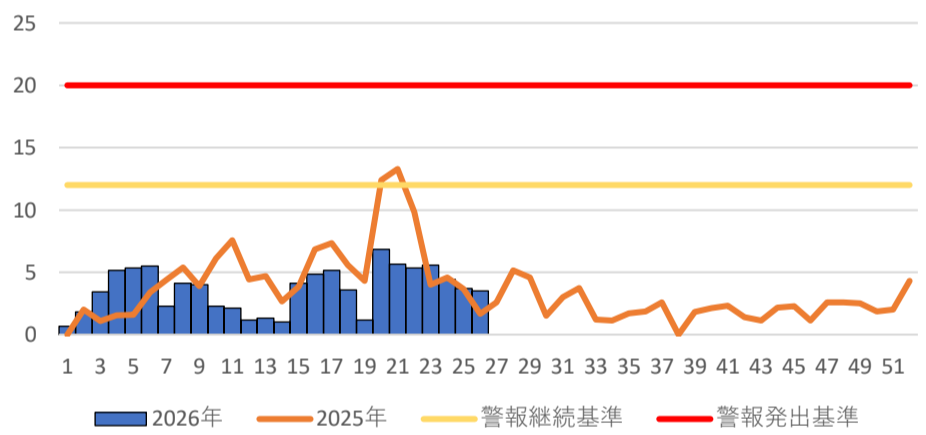
咽頭結膜熱



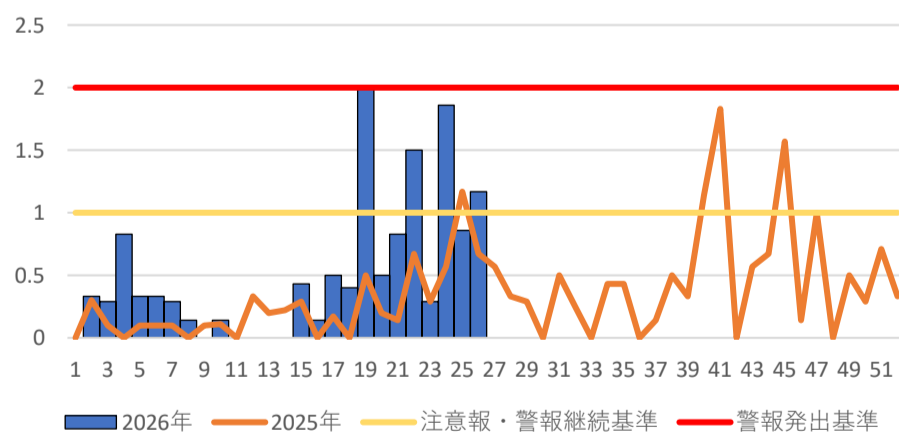
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



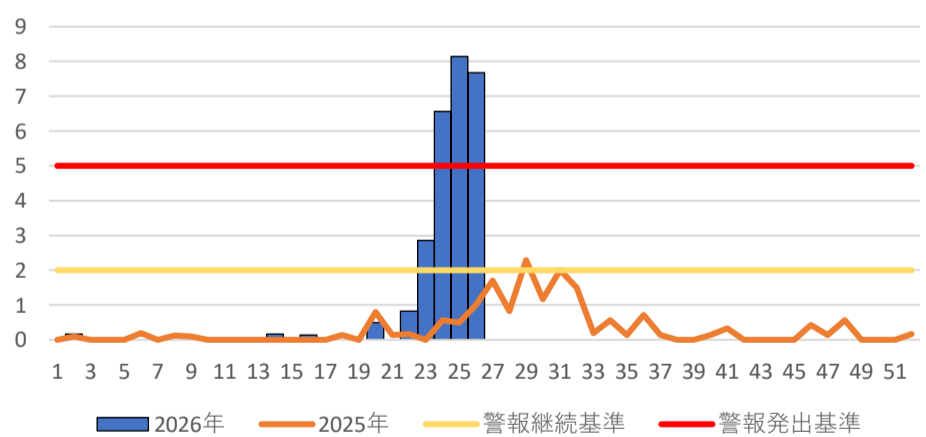
感染性胃腸炎



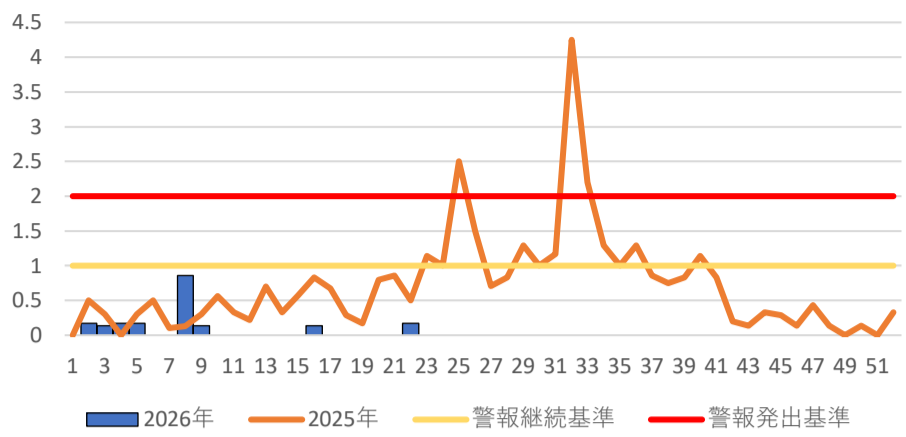
水痘



手足口病

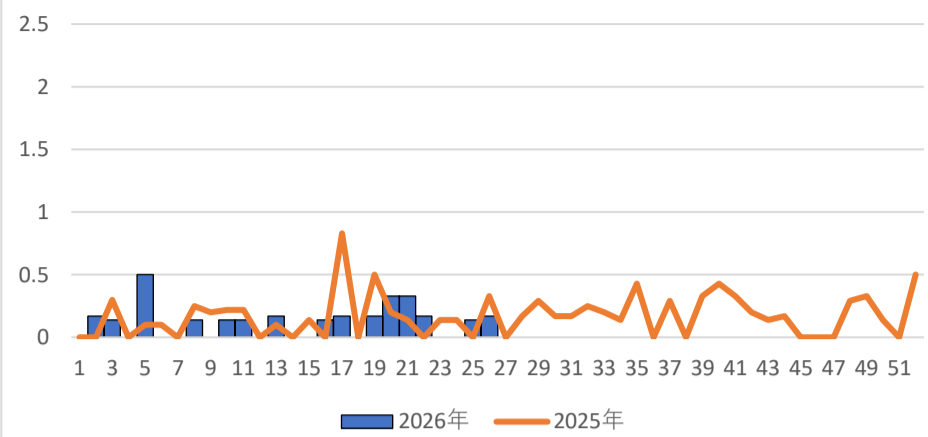


伝染性紅斑

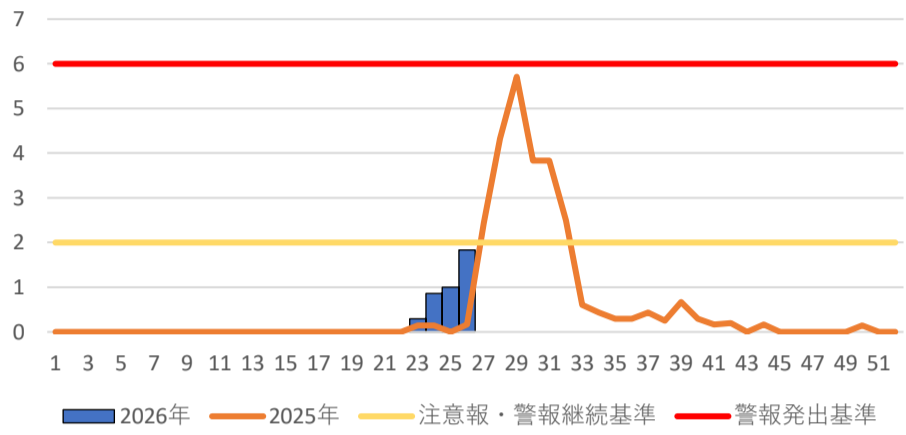


突発性発しん

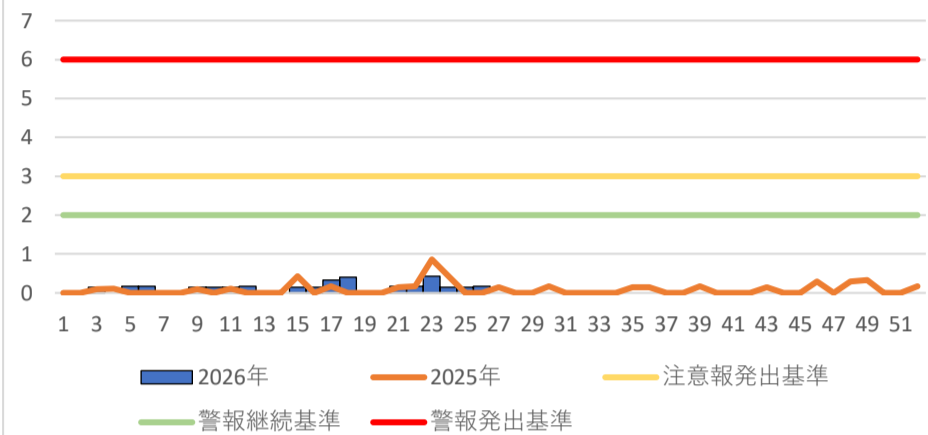
警報基準なし



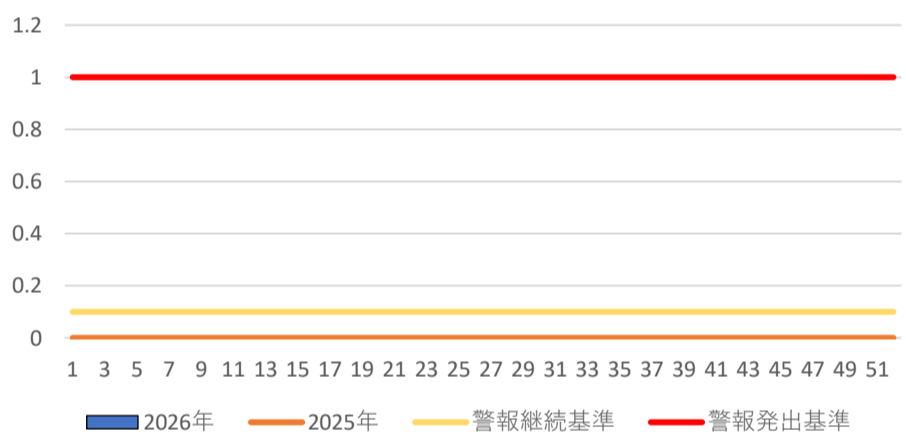
ヘルパンギーナ



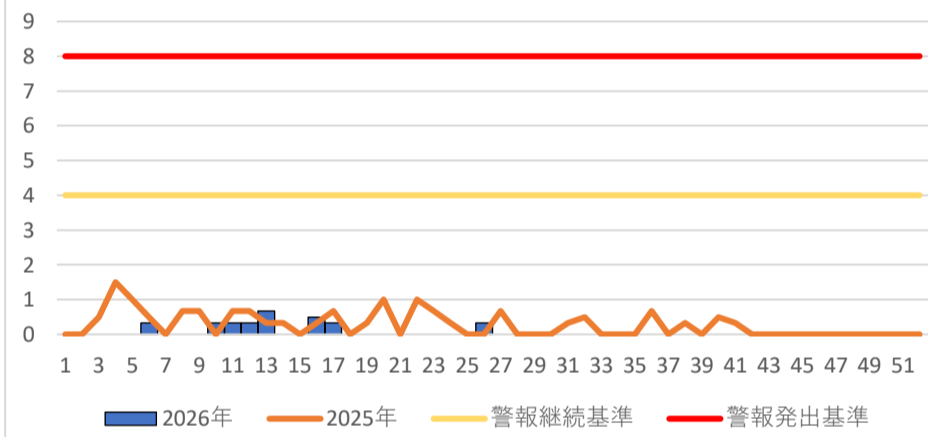
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎



流行性角結膜炎



急性呼吸器感染症（ARI）とは

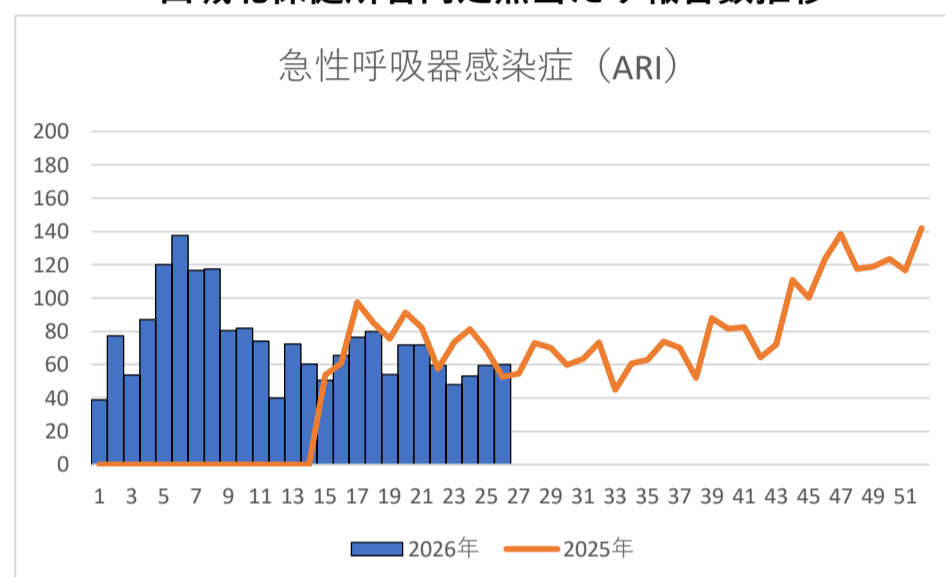
急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

令和7年4月7日からARIが感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。以下の症例定義（※）を満たす場合に報告対象となることから、インフルエンザやCOVID-19等と診断された場合でも、ARIの症例定義の症状があれば両方の報告対象となります。

※ 咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁(びじゅう)、鼻閉(びへい)のいずれか1つの症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

	定点あたりの報告数（前週比）
急性呼吸器感染症（ARI）	60.17（1.01）

山城北保健所管内定点当たり報告数推移



※ 急性呼吸器感染症：2025年4月7日から集計を開始

参考：京都府感染症情報センター 京都府におけるARI発生状況

<https://www.pref.kyoto.jp/idsc/old/ari.html>